

『秋季サイクリング大会 かながわサイクルフェスタ 2023 「ヨコハマ C.C.」(11/11)』

湘南台駅を 10 時半に出発!! ※大会を担当された大竹 清さん ブルベ (BRM) の最高峰である走行距離 1,200km にもなる第 20 回パリ～ブレスト～パリ・ランドヌール (Paris-Brest-Paris Randonneur: PBP) を見事完走いたしました。補記:星野

まずは慶応大学湘南キャンパス造成時に発見された縄文時代早期末の炉穴群へ向かいました。

この炉穴群 (竈の跡) が造られた 1 万 2 千年から 6 千年前、何故丘の下から水を汲み上げなければいけないようなこの場所に村を開かなければいけなかったのか、その頃起こっていたという縄文海浸の資料と共に古の海岸線に思いを馳せて見て頂きました。

次の立ち寄りスポット富士見の丘へは行ってはみたものの生憎当日は肌寒い曇り空、富士山の「ふの字」も見えない残念な状況。そして、国指定史跡の弥生時代の環濠住居跡、神崎遺跡へ、中原街道の江戸時代頃からの裏道、立小路を抜け迫力の新幹線側道からの大山街道で向かいます。

小高い南に開けた丘にある遺跡では、復元された竪穴住居を見て、弥生時代に遠く紀伊の地から移り住み、また、何処かへ去って行ったというこの集落の人達の思いに皆さん浸って頂けたのでしょうか?

目久尻川サイクリングロードを遡上して、縄文時代宮久保遺跡を横目に早川城址、東郷元帥祖先発祥の地碑、縄文の遺跡がある城山公園へ向かいましたが、昼食の時間も迫っていたので先を急ぎ、最近発展著しい綾瀬市役所周辺の飲食店へ各グループでランチをとっていただきました。

食後は市役所の「交通安全の碑」の前で今日の無事を祈念して集合写真を撮りました。



お腹も落ち着いて相模川流域に点在する古墳群の一つ秋葉山古墳群へ。

交通量の多い東名高速綾瀬スマートインター前を過ぎ、相鉄線かしわ台車両センターの前に差し掛かると皆さん神中鉄道 3 型蒸気機関車に吸い寄せられるように思わず撮影タイムとなりました。目久尻川河畔まで急な坂を下り、標高 80m 程の秋葉山古墳群へと一気に登り返します。

西に相模川の河岸段丘が広がる高台にある弥生時代から古墳時代の 5 つの古墳が連なるここからは、坂の途中、丹沢山塊や富士山を見渡せる小さな空き地があるけれど残念ながら木が生い茂っていて眺望は得られませんでした。

当然ながら登った後は下り、そこからは住宅地の中を縫うように座間の古い道、芝原道の坂をまたまた登る、未舗装だった頃は雨でも降れば上り下りに相当苦労したんじゃないかという急坂で皆さん難儀していましたね～

ボクシングの世界チャンピオン井上尚弥の足腰を育んだ座間の坂道をひとしきり感じていただき、高座海軍工廠の跡地、芹沢公園へ。休日には市民の憩いの場として賑わう公園内のがけ地に、やっと立って歩けるくらいのトンネルが口を開けています。

ここで終戦直前、やっと完成にこぎつけた局地戦闘機「雷電:らいでん」の部品を台湾の少年工達を動員して造っていたという場所で、縦横に延長 1~2 km あるという地下壕の中にひっそりとディスプレイされている雷電の模型が当時の窮状を思うと物悲しいですね。

そこから大和市最大級の公園、縄文時代の遺跡が点在する泉の森をかすめ、国道 246 号線、藤沢街道を横切り 15 世紀頃の山城、深見城址へ、今はただの雑木林の様相を呈しているが空堀らしき址が見て取れます。

そこから先、農家の塀の間の狭い S 字の坂道を下ると東名高速脇の境川河畔にひよいと出ます、横浜北部方面へ帰る参加者とはここでお別れ。

太田道灌が深見城を攻めた時、両軍 4 万の兵が戦ったという四万坂古戦場、相鉄線が敷かれる前、八王子街道沿いに位置し絹産業で栄えた瀬谷村の中心地だった上瀬谷の銀行が整備したという銀行坂、信州和田峠付近から産出される黒曜石で造られた矢じりなどが出土している縄文深見諏訪山遺跡、その後、大和駅で解散という行程だったのですが、日も傾いてきて家路を急ぎたい参加者も出て来たのでこの辺りでの解散となりました。

文 : ヨコハマ C.C. 大竹 様 写真は参加者の皆さま